

なすしおばら げんきびと 元気人

あなたの身近な
元気を募集中



>>>

戸田学園塾生

No. 34

いんなみ はるか
印南 遥 さん

西那須野中学校2年生の印南さん。1年後には高校受験を控えているが、書道は今後も続けたいという。4月上旬には師範の資格を得るための最初の試験に臨む。

※学年は取材時(平成29年3月)のもの。

Pick up



全神経を集中して筆を運ぶ。書いている時でも、常に先生の言葉が頭の中を駆け回っているという



書道の師、戸田^{ふみこ}文子先生(写真右)は、「彼女はとても素直な子で、教えた事もすぐに吸収してしまう。この素直ということが学びには大切で、彼女の力になっていますね」と語る

8年。日頃の努力が実を結んでの受賞だった。

印南さんが書道を始めたのは小学生になってすぐの頃。母親のすすめで戸田学園を訪れたとき、直感で「楽しい」と感じて塾生となった。「始めたころは筆の力加減などがよくわからなくて、難しいなと思ったのですが、戸田先生は問題点などをピンポイントに指摘されるので、とても分かりやすいんです」と先生の後ろ姿を眺める。

先生以外にも先輩からアドバイスをもらうことがあり、この教室の雰囲気もすごく好きだという。また、4年前から那須地区芸術祭で行っている書道のパフォーマンスでは、教室の仲間みんなで一つの大きな作品を仕上げるのが何よりも楽しいと、嬉しそうに話す。

実は、印南さんは書道以外にもそろばんと英語をこの教室で習っている。「書道やそろばんを通じて外国人と交流する機会がありました。その時彼らは、私の書いた書を『美しい』と、素直に感想を表現してきたんです。日本人と異なるその反応が、とても新鮮で印象的でした。将来は、書道を通して日本の文化を外国の人たちに知ってもらおう活動をしていきたいです」と将来の夢を語ってくれた。書と向き合う彼女のまなざしから、世界を見据えた決意を感じ取ることができた。



少しずつ、少しずつ
それが大きい

先生が大切にしている言葉は「少しずつ少しずつ、それが大きい」。この言葉どおり練習を続けてきて、今の私があるんです。

幼 少の頃から続けてきた書道。週2回の教室通い。毎回地道に練習を重ねてきた少女は、遂に全国で頂点に立った。今年1月5日に日本武道館で開催された第53回全日本書初め大展覧会。全国各地から1万6千点の作品が集まった中、最高賞の「内閣総理大臣賞」を受賞した印南遥さんに話を伺った。

「私の通う戸田学園には、過去に内閣総理大臣賞を受賞したことがある先輩がいて、私もいつか取りたいと憧れていました。その賞を実際に取ることができて本当にうれしい」。今回の受賞をそう振り返る印南さん。書道を始めて丸